

## 平成23年12月期～平成25年12月期 中期経営計画（新規）

平成23年7月20日

上場会社名 ラクオリア創薬株式会社

（コード番号：4579 JQグロース）

（URL <http://www.raqualia.com>）

問合せ先 代表取締役 長久 厚

取締役 常務執行役員 土屋 進

TEL：0569-84-0700

### 1. 今後3ヶ年の中期経営計画

#### (1) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括

前事業年度におけるわが国経済は、経済対策の効果により一部の景気指標に持ち直し傾向が見られたものの、デフレの影響や雇用情勢の悪化、さらには円高の進行等の影響から、再び先行き不透明な状況となっております。

製薬業界におきましては、薬価切下げや後発医薬品の使用促進を軸とする政府の医療費抑制策が進行する中、大型新薬の特許切れが相次ぐいわゆる「2010年問題」に直面し、新たな収益源となる新薬開発が重要な課題となっております。

このような環境の中、当社は、開発化合物の継続的な創出、複数のプロジェクトからなる研究開発ポートフォリオの拡充及びそれら開発化合物の導出を目指し、研究開発活動及び営業活動に積極的に取り組んでまいりました。

事業面では、平成22年8月に、丸石製薬株式会社との間で、EP<sub>4</sub>拮抗薬（RQ-00000007）の注射剤としての製品化に向けた導出契約を、また、同年9月には、CJ CheilJedang Corporation（韓国）との間で、アシッドポンプ拮抗薬（RQ-00000004及びRQ-00000774）の製品化に向けた導出契約を締結し、事業収益（契約一時金収入）を計上しております。

また、同年12月には、Aratana Therapeutics, Inc.（米国）との間で、EP<sub>4</sub>拮抗薬（RQ-00000007）及びグレリン受容体作動薬（RQ-00000005）の動物用医薬品としての製品化に向けた導出契約を、Durata Therapeutics, Inc.（米国）との間でダルババンシンに関する権利の譲渡契約を締結し、事業収益（契約一時金収入（一時金））を計上しております。さらに、Eli Lilly and Company（米国）との間で、特定のイオンチャネル（\*）に関するオプション権付き共同研究契約を締結しており、事業収益（研究協力金収入）を計上しております。

以上の結果、前事業年度の事業収益は1,186百万円（平成21年12月期事業収益一百万円）、営業損失は1,345百万円（平成21年12月期営業損失2,678百万円）、経常損失は1,295百万円（平成21年12月期経常損失2,638百万円）、当期純損失は1,307百万円（平成21年12月期当期純損失2,642百万円）となりました。なお、事業費用の総額は2,532百万円（平成21年12月期比5.5%減）であり、そのうち事業原価は101百万円（平成21年12月期事業原価一百万円）、研究開発費は1,652百万円（平成21年12月期比12.0%減）、その他の販売費及び一般管理費は777百万円（平成21年12月期比2.9%減）となりました。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

## (2) 中期経営計画の概要及び策定の背景

- 当社は、先端科学技術を活用し、医療分野においてニーズの高い疾患領域に対する新たな医薬品を生み出すことを目指す研究開発型の創薬企業であり、独自に創出した新薬の開発化合物（低分子化合物医薬）を製薬会社等に対して導出（使用許諾契約によりライセンスアウト）することにより収益を獲得することを事業展開の基本としております。
- 当社の「中期基本方針」は以下のとおりです。
  - ▶ 探索研究から初期開発さらに導出までを一体化して進める創薬ビジネスモデルを確立し、体制の整備及び効率化を図る。
  - ▶ 当社の強みを活かした独創性の高い創薬を推進する。
  - ▶ 導出活動、アライアンス・マネジメント（既導出先との医薬品開発過程での連携）等を通じて、事業パートナーとの信頼関係を構築し、確実なビジネス成果に結びつける。
- 当社の「中期経営目標」は以下のとおりです。
  - ▶ プロジェクトの導出を通じて、確実に収益を上げる。  
国内外の導出に向けたライセンス機能を充実し、事業パートナーとの成約の確率を高める。
  - ▶ ポートフォリオを充実し、価値を最大化する。  
探索研究の生産性を向上させ、ポートフォリオへの継続したプロジェクトの供給を行う。国内外の初期開発体制を整備し、各プロジェクトの価値及び導出成約の確率を高める。
  - ▶ 事業パートナーとの連携を強化し、収益を最大化する。  
導出後の開発及び販売を戦略的にサポートし、プロジェクトの上市確率及び製品価値を最大化する。

## (3) 事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件

- 当社は、医薬品の研究開発段階のうち、探索研究段階、前臨床試験段階及び臨床試験段階（うち一部）を主たる事業分野としており、製薬会社等へ開発化合物を導出することにより、収益を獲得する創薬事業を展開しております。
- 当社は、疼痛疾患領域及び消化管疾患領域を重点領域として研究開発を推進していく方針であります。また、当該2領域以外にも、当社のプロジェクトが関連する周辺領域や適応症の拡大等により研究開発対象領域の拡大も進めております。
- 当社の所有する開発化合物の導出を実現するため、適切な導出先企業の選択と顧客にとって最適な導入のタイミングを判断することが重要であり、事業戦略に基づき導出先の開拓を継続的に強化していくことが課題と考えております。
- 研究部門が創出した開発化合物について、その価値を高める質の高いデータを迅速かつ効率的に取得するために、外部リソースを柔軟に組み合わせて初期の臨床開発を進めること、さらにはそのためのプロジェクト推進体制を整備することが重要であると考えております。
- 医薬品の研究開発には、長期かつ多額の費用を要するものですが、リスクを低減し、収益の機会の最大化を図るため、少数の限られたプロジェクトに経営資源を集中するのではなく、研究開発ポートフォリオを拡充する戦略を採っており、初期探索段階から開発段階までの各段階において保有する研究開発ポートフォリオすべてを導出対象とし、機動的かつ柔軟な体制で営業活動を展開してまいります。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

## 2. 今期の業績予想及び今後の業績目標

	事業収益	営業損失 (△)	経常損失 (△)	当期純損失 (△)
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成22年12月期 (実績)	1,186	△1,345	△1,295	△1,307
平成23年12月期 (計画)	1,290~1,777	△1,910~△1,463	△1,897~△1,451	△1,901~△1,454
平成24年12月期 (目標)	1,887~2,532	△1,519~ △934	△1,510~ △934	△1,516~ △931
平成25年12月期 (目標)	3,332~3,467	△318~ △183	△310~ △175	△319~ △184

(注) 上記は、経営計画に基づき費用毎に予測金額を積み上げた計画値を記載しております。

### 業績予想及び業績目標の前提条件・数値根拠

- 事業収益については、各プロジェクトの研究開発計画をベースとして収益計上のタイミングを予測して策定しております。収益金額については、プロジェクト毎に市場規模、競合状況、優位性、特殊性、直近における交渉状況等を考慮し、契約一時金収入及びマイルストーン収入を策定しております。また、導出交渉が進行中のプロジェクトについては、交渉中の経済条件を計画に反映しております。
- 当社の研究開発体制は、プロジェクトを中心とした階層のない組織により運営されており、迅速な意思決定及び業務の遂行を可能としております。人員計画については、現在の規模を維持しつつ、さらに効率的な組織体制を構築してまいります。

	人員計画	備考
平成23年12月期	人員数 85名	
	うち研究開発 63名	
平成24年12月期	人員数 85名	
	うち研究開発 63名	
平成25年12月期	人員数 85名	
	うち研究開発 63名	

- 事業費用については、①事業原価、②研究開発費、③その他の販売費及び一般管理費の3つに区分しており、それぞれの金額については、部門毎・費用毎に予測金額を積上げることにより、3ヶ年の計画を策定しております。
- 設備投資計画については、当社は主要な研究機器・分析装置・研究開発用ソフトウェア等を所有しているため、今後機器の更新やバージョンアップの必要なものを中心に、設備計画への組入れを行っております。
- 業績予想については、新たな導出先からの契約一時金収入が期待できるものの、新たな導出候補先との交渉状況及び研究開発の進捗状況に依存しており、現時点では不確実性が高いため、これら契約締結及び研究開発の進捗の遅延の可能性を考慮し、開示する予想数値には幅をもたせております。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

### 3. その他参考情報

#### ○ 主な研究開発ポートフォリオの状況

		前臨床試験		臨床第Ⅰ相試験		前期臨床第Ⅱ相試験		後期臨床第Ⅱ相試験		臨床第Ⅲ相試験	
		準備		準備		準備		準備		準備	
EP <sub>4</sub> 拮抗薬 (RQ-00000007)	慢性炎症性疼痛、急性痛、炎症、自己免疫疾患、アレルギー、癌	(Pfizer Inc. (以下「米国ファイザー社」)にて実施)						(注2)			
EP <sub>4</sub> 拮抗薬 (RQ-00000008)	慢性炎症性疼痛、急性痛、炎症、自己免疫疾患、アレルギー、癌	(米国ファイザー社にて実施)		臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験(注3)							
シクロオキシゲナーゼ-2(COX-2)阻害薬 (RQ-00317076)	急性痛	(米国ファイザー社にて実施)						(注4)			
5-HT <sub>4</sub> 部分作動薬 (RQ-00000009)	アルツハイマー病	(米国ファイザー社にて実施)									
5-HT <sub>4</sub> 部分作動薬 (RQ-00000010)	胃食道逆流症(*)										
アシッドポンプ拮抗薬 (RQ-00000004)	胃食道逆流症										
アニデュラファンギン	カンジダ症(米国)	(米国ファイザー社にて実施)				ブリッジング試験(注5)					

- (注) 1. は開発計画を表しており、 は実施済みであり、 は平成23年12月期、 は平成24年12月期、 は平成25年12月期における開発計画の到達目標を表しております。
2. 自己免疫疾患を前提とした開発計画。臨床ステージは臨床第Ⅱ相試験(前期)より再開としました。
3. 癌を前提とした開発計画。最初に実施する安全性評価は患者試験となることが想定されるため、臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験と図示しました。
4. 臨床ステージは臨床第Ⅱ相試験(後期)より再開としました。
5. ブリッジング試験(\*)を前提とした開発計画。臨床第Ⅰ相試験を実施後、海外の臨床試験データを利用して臨床第Ⅱ相試験(後期)と臨床第Ⅲ相試験を兼ねた試験の実施が想定されるため、ブリッジング試験と図示しました。

以下に、各ポートフォリオにおける計画達成のための要点を記載いたします。

#### ◎ EP<sub>4</sub>拮抗薬 (RQ-00000007)

特徴：IL-17を始めとする、自己免疫の亢進に関わるサイトカインの産生を抑制する新規メカニズムの低分子自己免疫疾患治療薬であるという特徴を持っています。

適応症：慢性炎症性疼痛、急性痛、炎症、自己免疫疾患、アレルギー、癌

対象市場：全世界(日本及び東アジア(韓国・中国・台湾)の注射剤を除く)

開発段階：[慢性炎症性疼痛]米国ファイザー社にて、前期臨床第Ⅱ相試験を終了。

[急性痛、炎症、自己免疫疾患、アレルギー、癌]米国ファイザー社にて、臨床第Ⅰ相試験を終了。当社にて、各適応症に係る前臨床試験を実施中。

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 前臨床試験及び、慢性疼痛で実施された臨床試験の結果を基に導出し、導出先で自己免疫疾患で先行開発することを前提としています。
- ▶ 導出先での判断に必要な、本化合物の自己免疫疾患に対する臨床での有効性を強く示唆する前臨床薬理試験の結果を示すことが課題となります。
- ▶ 現在、試験データが蓄積されており、この結果を基にした導出活動を進めながら、並行して更

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

に前臨床薬理試験を継続して実施します。

◎ EP<sub>4</sub>拮抗薬 (RQ-00000008)

特 徴：癌に伴う、炎症-癌相互作用による癌の増悪に関わるEP<sub>4</sub>受容体を標的とする新規メカニズムの低分子抗癌剤であるという特徴を持っています。

適 応 症：慢性炎症性疼痛、急性痛、炎症、自己免疫疾患、アレルギー、癌

対象市場：全世界

開発段階：当社にて、癌に係る前臨床試験を実施中。

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 癌を主たる適応症として、前臨床試験の結果を基に導出し、導出先での開発を行うことを前提としています。
- ▶ 導出先での判断に必要な、本化合物の癌に対する臨床での有効性を強く示唆する前臨床薬理試験の結果を示すことが課題となります。
- ▶ 現在、試験データが蓄積されており、この結果を基にした導出活動を進めながら、並行して更に前臨床薬理試験を継続して実施します。

◎ シクロオキシゲナーゼ-2 (COX-2) 阻害薬 (RQ-00317076)

特 徴：炎症、疼痛、癌等の病態時に特異的に発現が誘導されるCOX-2を選択的に阻害し、強力な鎮痛作用を持ち、既存薬で懸念とされる腎障害性が低いことが期待される急性痛治療薬であるという特徴を持っています。

適 応 症：急性痛

対象市場：全世界

開発段階：米国ファイザー社にて、前期臨床第Ⅱ相試験を終了。

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 前臨床試験及び、抜歯術後疼痛における臨床試験の結果を基に導出し、導出先で急性痛の後期臨床第Ⅱ相以後の開発を実施することを前提としています。
- ▶ 導出活動支援のため、他適応症に係る前臨床試験を必要に応じて実施します。

◎ 5-HT<sub>4</sub>部分作動薬 (RQ-00000009)

特 徴：認知機能の改善と共に、アミロイドβ (\*) の蓄積を抑制する効果を併せ持つ新規のメカニズムを持つ低分子アルツハイマー病治療薬であるという特徴を持っています。

適 応 症：アルツハイマー病

対象市場：全世界

開発段階：米国ファイザー社にて、臨床第Ⅰ相試験を終了。当社にて、アルツハイマー病に係る前臨床試験を実施中。

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 前臨床試験及び、胃食道逆流症で実施された臨床試験の結果を基に導出し、導出先でアルツハイマー病の臨床第Ⅱ相以後の開発を実施することを前提としています。
- ▶ 導入の判断に必要な、本化合物のアルツハイマー病に対する臨床での有効性を強く示唆する前臨床薬理試験の結果を導出先に示すことが課題となります。
- ▶ 現在、試験データが蓄積されており、この結果を基にした導出活動を進めながら、並行して更に前臨床薬理試験を継続して実施します。

◎ 5-HT<sub>4</sub>部分作動薬 (RQ-00000010)

特 徴：強力な消化管運動機能改善作用を持ち、心血管系の安全性の高い胃食道逆流症の治療薬であるという特徴を持っています。

適 応 症：胃食道逆流症

対象市場：全世界

開発段階：前臨床試験を実施中

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 当社で、健康成人を対象とした忍容性、安全性および薬理作用を検討する臨床第Ⅰ相試験を実施し、得られた結果を基に導出し、導出先で臨床第Ⅱ相試験以後の開発を実施することを前提としています。
- ▶ 臨床第Ⅰ相試験で、心血管系を含む安全性の確認と、バイオマーカー (\*) による薬理作用の検討を行い、それらの結果を導出先に示すことが課題となります。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

- ▶ 前臨床試験の結果を基に導出活動を進めながら、並行して早期に臨床試験を開始できるよう準備を進めます。

◎ アシッドポンプ拮抗薬 (RQ-00000004)

特 徴：服薬後速やかに胃酸分泌抑制作用を発現し、就寝前の服用により夜間の胸焼け症状を改善できる胃食道逆流症の治療薬であるという特徴を持っています。

適 応 症：胃食道逆流症

対象市場：全世界（韓国、中国（香港を含む）及び台湾を除く）

開発段階：臨床第 I 相試験を実施中

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 当社で、健康成人を対象とした忍容性、安全性および薬理作用を検討する臨床第 I 相の単回投与試験を実施し、得られた結果を基に導出し、導出先で引き続き臨床第 I 相試験以後の開発を実施することを前提としています。
- ▶ 導出活動支援のため、臨床第 I 相試験成績のまとめを作成します。並行して、臨床第 I 相試験の総括報告書の早期完成を目指します。

◎ アニデュラファンギン

特 徴：海外で既に上市されており、特徴的な代謝・排泄経路により腎臓及び肝臓に機能障害を持つ患者に使いやすい治療薬であるという特徴を持っています。

適 応 症：カンジダ症（米国）

対象市場：日本

開発段階：欧米他で上市済

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 海外データを利用し、ブリッジング試験による短期間の開発により日本で承認申請することを前提としています。
- ▶ 海外における本製品の適応症はカンジダ症のみですが、日本での臨床開発においては、アスペルギルス症治療の適応拡大も検討しています。

○ 当社は、医薬品の研究開発段階のうち、探索研究段階、前臨床試験段階及び臨床試験段階（うち一部）を主たる事業分野としております。臨床試験段階においては多額の研究開発費が必要となるため、当社における研究開発に係る費用及びリスク負担を低減する目的から、安全性及び有効性が概ね評価可能となる段階（主として臨床第 I 相試験まで、必要に応じて臨床第 II 相試験を一部実施）までを当社にて行い、その後製薬会社等へ開発化合物を導出することを基本としております。

このため、資金計画については、当社で実施を計画している試験については株式上場時公募資金を充当し、また製薬会社等への導出後は提携会社の資金による開発の実施を想定しております。製造についても同様で、自社による設備投資計画はございません。

○ 主な導出済み研究開発ポートフォリオの状況

	導出先	前臨床試験		臨床第 I 相試験		前期臨床第 II 相試験		後期臨床第 II 相試験		臨床第 III 相試験			
		準備		準備		準備		準備		準備			
EP <sub>4</sub> 拮抗薬 (RQ-00000007, 注射剤)	丸石製薬株式会社	(注2)		(丸石製薬にて実施)									
アシッドポンプ拮抗薬 (RQ-00000004)	CJ CheilJedang Corporation	(注3)		(CJ CheilJedang にて実施)									
ジブラシドン	Meiji Seika ファルマ株式会社	(米国ファイザー社にて実施) (注4)		(Meiji Seikaファルマにて実施)									
特定のイオンチャネル	Eli Lilly and Company			(Eli Lilly にて実施)									

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

- (注) 1.  は開発計画を表しており、 は実施済であり、 は平成23年12月期、 は平成24年12月期における開発計画の到達目標を表しております。
2. 経口剤では、米国ファイザー社にて、前期第Ⅱ相試験を終了しました。
3. 当社にて、臨床第Ⅰ相試験を米国で実施中です。
4. 海外では、米国ファイザー社にて、欧米他で上市済です。

以下に、各ポートフォリオにおける計画達成のための要点を記載いたします。

◎ EP<sub>4</sub>拮抗薬 (RQ-00000007) / 丸石製薬株式会社

契約内容：導出契約、注射剤

適応症：全ての適応症

対象市場：日本及び東アジア（韓国・中国・台湾）

開発段階：前臨床試験（導出時）

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 丸石製薬が開発を実施します。当社は非臨床試験の一部を担当します。また、原薬供給に責任を負います。
- ▶ 丸石製薬における開発の支援および原薬供給体制の確立が課題となります。
- ▶ 当社で担当する非臨床試験を遅滞なく実施します。また、原薬供給製造施設の早期決定を目指します。

◎ アシッドポンプ拮抗薬 (RQ-00000004) / CJ CheilJedang Corporation

契約内容：導出契約

適応症：全ての適応症

対象市場：韓国、中国（香港を含む）及び台湾

開発段階：前臨床試験（導出時）

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ CJ CheilJedang が開発を実施することを前提としています。
- ▶ CJ CheilJedangにおける開発の支援が当社の課題となります。
- ▶ 当社が米国で実施した臨床第Ⅰ相試験成績を提供するため、総括報告書の早期完成を目指します。

◎ ジブラシドン / Meiji Seikaファルマ株式会社

契約内容：ライセンス契約（再許諾契約）

適応症：全ての適応症

対象市場：日本

開発段階：臨床第Ⅰ相試験を終了（導出時、経口剤、日本）、前臨床試験を終了（導出時、筋注剤、日本）

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ Meiji Seikaファルマが開発を実施することを前提としています。
- ▶ Meiji Seikaファルマにおける開発の支援が当社の課題となります。
- ▶ 当社は日本の開発に必要な、米国ファイザー社が実施した試験の情報入手に務め、Meiji Seikaファルマへの提供を行います。

◎ 特定のイオンチャネル / Eli Lilly and Company

契約内容：オプション権付き共同研究及び導出契約

適応症：全ての適応症

対象市場：全世界

開発段階：探索研究

主な前提条件、課題と具体的施策：

- ▶ 開発候補化合物の特定を主に当社が担当し、前臨床開発以後をEli Lilly社が担当することを前提としています。
- ▶ 2011年内に化合物を開発候補化合物として特定することが課題となります。
- ▶ 共同研究チームにより、Eli Lilly社と綿密な連携を取ってプロジェクトを進めていきます。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

○ 主な導出済み研究開発ポートフォリオの状況（動物用医薬品）

	導出先	前臨床試験		臨床試験	
		準備		準備	
EP <sub>4</sub> 拮抗薬 (RQ-00000007)	Aratana Therapeutics, Inc.				(Aratana Therapeuticsにて実施)
グレリン受容体作動薬 (RQ-00000005)	Aratana Therapeutics, Inc.				(Aratana Therapeuticsにて実施)

(注) 1.  は開発計画を表しており、 は実施済みであります。

以下に、各ポートフォリオにおける計画達成のための要点を記載いたします。

◎ EP<sub>4</sub>拮抗薬（RQ-00000007）／Aratana Therapeutics, Inc.

契約内容：導出契約、動物用医薬品

適応症：全ての適応症

対象市場：全世界（日本及び東アジア（韓国・中国・台湾）における注射剤を除く）

開発段階：臨床試験（導出時）

主な前提条件、課題と具体的施策：

- Aratana Therapeuticsが開発を実施することを前提としています。
- Aratana Therapeuticsにおける開発の支援が当社の課題となります。
- 開発を推進するAratana Therapeuticsと連携を取り、当社に必要とされる支援を遅滞なく実施するよう務めます。

◎ グレリン受容体作動薬（RQ-00000005）／Aratana Therapeutics, Inc.

契約内容：導出契約、動物用医薬品

適応症：全ての適応症

対象市場：全世界

開発段階：臨床試験（導出時）

主な前提条件、課題と具体的施策：

- Aratana Therapeuticsが開発を実施することを前提としています。
- Aratana Therapeuticsにおける開発の支援が当社の課題となります。
- 開発を推進するAratana Therapeuticsと連携を取り、当社に必要とされる支援を遅滞なく実施するよう務めます。

<用語解説>（アルファベット、50音順）

\* アミロイドβ

アルツハイマー病の発症メカニズムは未だ明らかではありませんが、アミロイドβは、病気の発症に関与する重要なタンパク質の一つと考えられております（アミロイド仮説）。これは、アルツハイマー病患者の脳においてアミロイドβが高濃度に存在し、これが凝集・沈着して老人斑を形成し神経細胞の縮退を招いていると考えられているものであります。脳内のアミロイドβの生成を抑制する、あるいは脳内のアミロイドβを取り除くことがアルツハイマー病の根本的治療につながると考えられており、この仮説に基づいた薬剤開発が行われております。

\* イオンチャネル

イオンチャネルは細胞膜に存在する蛋白分子であり、細胞内外間のイオンの通路を形成しております。GPCRが細胞膜を介して情報伝達を行うのに対して、イオンチャネルはイオンそのものを輸送することによって膜電位変化を電気信号へと変換し、筋肉の収縮や様々な伝達物質の放出を誘発するものであります。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。



\* 胃食道逆流症（GERD）

Gastroesophageal Reflux Diseaseの略称であり、胃内容物、特に胃酸が食道内に逆流することによって、胸焼け等の特徴的な症状をもたらす疾患であります。下部食道粘膜に粘膜傷害が認められる逆流性食道炎と内視鏡的に粘膜傷害を認めない内視鏡陰性GERD（NERD）とに分類されます。

\* バイオマーカー

尿や血液中に含まれる生体由来の物質等で、特定の病気や薬の効果等に応じた体内での変化を定量的に把握するための指標（マーカー）となるものを言います。

\* ブリッジング試験

ブリッジング試験とは、外国臨床データを新地域（本文のケースでは日本）の人々に外挿するために新地域（日本）で実施される臨床試験であり、新地域（日本）における有効性、安全性及び用法・用量に関する臨床データ又は血中濃度と薬効の関係についてのデータを得ることを目的として行われるものです。

以上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。なお、当社株式についての募集・売出に関しては、それらにかかる別途用意しております目論見書等をご覧ください。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。